Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2024 subscription series

Booklet

2024シーズン定期演奏会

2024

6

東京フィルハーモニー交響楽団

English pages inside

©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会は
この6月の公演をもって第1000回を数えます
これまでのご支援に楽団一同感謝申し上げます
歴史を紡ぎ、さらなる未来へ向かって響くオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY　Rakuten Mobile　マルハン　LOTTE　ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は
上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1000回オーチャード定期演奏会
6月23日（日）15:00開演　Bunkamura オーチャードホール

第1001回サントリー定期シリーズ
6月24日（月）19:00開演　サントリーホール

第162回東京オペラシティ定期シリーズ
6月26日（水）19:00開演　東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンフン

ピアノ：務川慧悟

オンド・マルトノ：原田 節

コンサートマスター：依田真宣

メシアン：トゥランガリーラ交響曲（約80分）

I.　序奏
II.　愛の歌1
III.　トゥランガリーラ1
IV.　愛の歌2
V.　星々の血の喜び
VI.　愛の眠りの庭
VII.　トゥランガリーラ2
VIII.　愛の展開
IX.　トゥランガリーラ3
X.　終曲

※途中休憩はございません。

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）独立行政法人日本芸術文化振興会
後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ　協力：Bunkamura（6/23）

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

今回のオーチャード定期演奏会は東京フィルが「いとう呉服店少年音楽隊」として1911年に発足の後、様々に名称を変えながら第二次世界大戦を乗り越え、1948年4月に「東京フィルハーモニー交響楽団」の名で第1回の定期演奏会を開催してから1000回目を迎える記念すべき公演です。本公演のプログラム扉（左ページ）では、第1回定期演奏会のプログラム冊子のデザインを取り入れました。歴史に想いを馳せ、未来へと続くオーケストラの歴史の1ページを共に体験いただければ幸いです。

出演者プロフィール

©上野隆文

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放送響音楽監督および首席指揮者（1984～1989）、パリ・オペラ座バスティーユ音楽監督（1989～1994）、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者（1997～2005）、フランス国立放送フィル音楽監督（2000～2015。現在は名誉音楽監督）、ソウル・フィル音楽監督（2006～2015）、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者（2012～）など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。2022年6月、イタリア共和国功績勲章であるグランドオフィサーの称号を長年にわたるイタリアの文化発展への貢献に対して受勲。2023年3月、イタリア・ミラノのスカラ・フィルハーモニー管弦楽団として初めての名誉指揮者に就任した。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名誉指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

©Yuji Ueno

ピアノ　務川慧悟
Keigo Mukawa, piano

2021年世界三大コンクールの一つである、エリザベート王妃国際音楽コンクールにて第3位受賞。2019年にはフランスで最も権威のある、ロン=ティボー=クレスパン国際コンクールにて第2位受賞。

長い歴史と伝統のある2つの国際コンクールの上位入賞で大きな注目を集め、現在、日本、ヨーロッパを拠点にソロ、室内楽と幅広く演奏活動を行っている。バロックから現代曲までレパートリーは幅広く、各時代、作曲家それぞれの様式美が追究された演奏、多彩な音色には定評がある。また現代ピアノのみならず、古楽器であるフォルテピアノでの奏法の研究にも取り組んでいる。

東京藝術大学を経て、2014年パリ国立高等音楽院に審査員満場一致の首席で合格し渡仏。ピアノ科第3課程を修了、室内楽科第1課程修了。現在は国内外での演奏活動の傍ら、フォルテピアノ科に在籍し研鑽を積んでいる。2022年、NOVA Recordより「ラヴェル:ピアノ作品全集」をリリース。また、自身の編曲によるラヴェル『マ・メール・ロワ』ピアノソロ版の譜面をMuse Pressより出版している2024年、第33回出光音楽賞受賞。

Official Website　https://keigomukawa.com/

©Yutaka Hamano

オンド・マルトノ　原田 節
Takashi Harada, ondes Martenot

強烈な自己表現能力に優れたオンド・マルトノとの出会いを期に、慶應義塾大学経済学部を卒業後渡仏、パリ国立高等音楽院（コンセルヴァトワール）オンド・マルトノ科を首席で卒業、オンド・マルトノを独奏楽器として扱う世界でも数少ないソリストとしての演奏活動を開始した。出光音楽賞、横浜文化奨励賞、ミュージック・ペンクラブ賞など受賞も多数。また、20世紀を代表するフランスの作曲家オリヴィエ・メシアン作曲「トゥランガリーラ交響曲」は、オンド・マルトノが主役として活躍する楽曲であり、日本国内はもちろん、ソリストとしてカーネギーホール、ベルリンフィルハーモニーホール、シャンゼリゼ劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座といった主要な劇場における世界最高峰のオーケストラとの共演は20ヶ国350回を超える。

Instagram:@takashiharadaondesmartenot

楽曲紹介

解説＝平野貴俊

メシアン
トゥランガリーラ交響曲

第2次世界大戦後には社会・文化のあらゆる側面がリセットされ、作曲家もまたタブラ・ラサ（白紙）の状態から創作を再開した、とよく言われる。この説明はP. ブーレーズやJ. ケージらいわゆる「前衛」の作曲家を念頭においたものだが、彼らの台頭に先立って、この白紙をひときわ鮮やかに塗りあげた作品がある。それがオリヴィエ・メシアン（1908-1992）の『トゥランガリーラ交響曲』である。

第2次世界大戦中、ゲルリッツ（現ポーランド領）の捕虜収容所で8か月を過ごしたのちフランスに戻り、1941年にパリ音楽院和声クラス教授となったメシアンは、フランスの主導的な中堅作曲家としての地位を築きつつあった。ところが、カトリックの信仰に篤いオルガン奏者でもあったメシアンが当時書いていた、神への愛を独特のリズムと旋法で表現する音楽は、一部の批評家からその珍妙さを批判され、「メシアン事件」とよばれる論争が引きおこされた。

そんなメシアンに国際的に活躍するきっかけを与えたのが『トゥランガリーラ交響曲』だった。指揮者・コントラバス奏者のセルゲイ・クーセヴィツキー（1874-1951）は早くも1936年、『忘れられた捧げもの』（1930）のアメリカ初演を指揮していた（このときメシアンの作品は初めてフランス国外で演奏された）。財団を設立しバルトーク『管弦楽のための協奏曲』（1943／45）なども委嘱していた彼は1945年6月、メシアンに手紙を送り、1000ドル（現在の約270万円に相当）という委嘱料のみを提示して作曲を依頼する。日本が終戦を迎えた直後の8月20日に承諾の返事を送ったメシアンは、委嘱作を約2年5か月かけて作曲、アメリカでの世界初演は完成の約1年後に行われた。

初演時の聴衆、批評家の反応はおおむね冷たく、フランス初演（1950）を聴いたプーランクも酷評を口にした。しかし、小澤征爾が指揮した日本初演（1962）など、メシアン臨席のもとでの演奏が世界各地で相次いだ結果、現在では25を超えるCD録音が存在し、日本でもほぼ毎年演奏される人気作品となった。ローラン・プティ、ジョン・ノイマイヤーの振付によるバレエ化も行われて

いる。1994年には、作曲時のメシアンと同じ年頃のチョン・ミョンフンが指揮し、晩年の作曲者が「決定版」と絶賛したドイツ・グラモフォンの録音（1990）にもとづき、細かな修正を含む改訂版のスコアが刊行された。

メシアンは本作を、歌曲集『ハラウィ』（1945）と合唱曲『5つのルシャン』（1948）に挟まれた「トリスタンとイズー」3部作の2作目に位置づけたが、愛と死をテーマとするこのサイクルのなかでも本作は、盲目的な喜び、恋人たちの万物を超越する愛に焦点をあてている。メシアンはパリ音楽院で最初に教えた生徒のひとり、ピアニストのイヴォンヌ・ロリオ（1924-2010）とこのころたびたび演奏旅行を行い、自作の2台ピアノ曲『アーメンの幻影』（1943）などを演奏していた。他方で、妻であるヴァイオリニストのクレール・デルボス（1906-1959）は、43年ころ始まった心身の不調をさらに悪化させてゆく。デルボスが世を去った2年後、ロリオはメシアンの2番目の妻となった。

メシアンは、サンスクリット語で「トゥランガ」は経過する時間、「リーラ」は神々による創造と破壊であり、「トゥランガリーラ」は愛の歌、喜び、時間、動き、リズムなどを意味すると言うが、たんに耳に快い響きの語が選ばれた可能性もある。また最初に作曲されたのは序奏、第4、6楽章、終曲であるといい、一部の楽章はメシアンによれば伝統的な形式に拠っているため、10楽章という異例の楽章数をもつ本作にも、交響曲としての性格は確かに残っている。構成としては、「愛の歌」（第2、4、8楽章）と「トゥランガリーラ」（第3、7、9楽章）の系列が、本作の精髄ともいえる序奏、第5、6楽章と終曲を取りまいている。オーケストラに実質上のソロとして加わるのは、ピアノと、1928年にフランスで開発された電子楽器オンド・マルトノ。卓越した技巧の持ち主であるロリオを想定して書かれたピアノ・パートはオーケストラを「ダイヤモンドのように輝かせ」（メシアン）、1930年代からメシアンがたびたび用いたオンド・マルトノは、天と地を媒介するかのような妙なる音色を響かせる。また「ガムラン」（メシアンは1931年のパリ国際植民地博覧会で聴いて感銘を受けた）と彼がよぶグロッケンシュピール、チェレスタ、ヴィブラフォン、ピアノ、金属打楽器からなる楽器グループも活躍する。以下の楽章ごとの解説では、メシアン自身が指摘する形式・技法上の特徴のみ簡潔に記すにとどめた。103人の奏者が展開する、80分超の壮大な音の世界に身を浸したい。

第1楽章　序奏　トロンボーンによる荘重な**彫像の主題**、2本のクラリネットによる**花の主題**。メシアンは花の主題のイメージとして、細い花穂に交互に花が咲くグラジオラスなどを挙げている。

第2楽章　愛の歌1　4つの和音からなる**和音の主題**は本楽章以後、第7、8楽章、終曲で用いられる。

第3楽章　トゥランガリーラ1　大太鼓、ウッドブロック、マラカスが3層の「リズムの登場人物」（音価すなわち音の長さの増加、減少、不変化を対照させる、メシアンが考案した技法）を形成する。

第4楽章　愛の歌2　2つのトリオをもつスケルツォ。末尾の星の瞬きを思わせる音響に、メシアンの巧みな管弦楽法が表れている。

第5楽章　星々の血の喜び　ソナタ形式。展開部ではリズムの登場人物によって**彫像の主題**が発展される。

第6楽章　愛の眠りの庭　オンドと弦楽器が**愛の主題**を緩やかなテンポで奏する。ピアノはナイチンゲール、クロウタドリなどの歌を奏でる。

第7楽章　トゥランガリーラ2　リズムと音価に関する技法が用いられる。不気味な雰囲気を、メシアンはエドガー・アラン・ポーの短編小説『落とし穴と振り子』に関連づけている。

第8楽章　愛の展開　**愛の主題**が次々と転調、反復され壮大なクライマックスを築く。

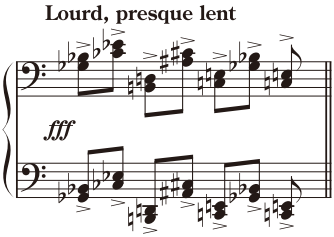
第9楽章　トゥランガリーラ3　17の音価（16分音符から16分音符の17倍）がさまざまな楽器に割り当てられ、弦楽器が13に分かれたパートを奏する。

第10楽章　終曲　ファンファーレ的主題が反復されたのち、オンドとオーケストラが**愛の主題**を高らかに歌いあげ、愛と喜びの狂乱へと至る。

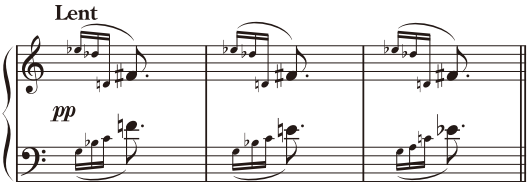
［作曲年代］1946～48年　**［初演］**1949年12月2日、ボストンにてレナード・バーンスタイン指揮ボストン交響楽団、イヴォンヌ・ロリオ（ピアノ）、ジネット・マルトノ（オンド・マルトノ）の演奏による

［楽器編成］ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット3、ホルン4、ピッコロ・トランペット、トランペット3、コルネット、トロンボーン3、テューバ、打楽器（タンブリン、プロヴァンス太鼓、小太鼓、大太鼓、トライアングル、小シンバル、クラッシュ・シンバル、サスペンデッド・シンバル、チャイニーズ・シンバル、タム・タム、チューブラー・ベル、マラカス、ウッドブロック、テンプル・ブロック3、グロッケンシュピール、ヴィブラフォン）、チェレスタ、ピアノ、オンド・マルトノ、弦楽5部

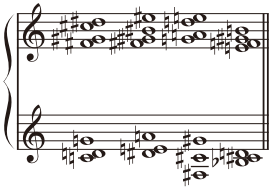
彫像の主題



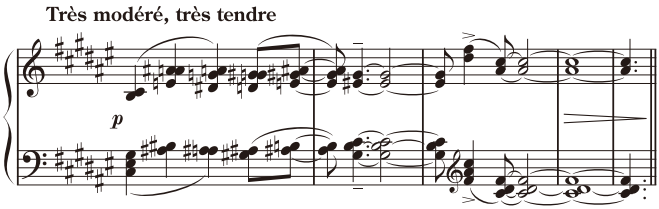
花の主題



和音の主題



愛の主題



ひらの･たかとし／音楽学者。1987年生まれ。12歳のとき『トゥランガリーラ交響曲』を初めて聴いて現代音楽に開眼。原田節氏にオンド･マルトノの手ほどきを受ける。音楽学（博士）。第2次世界大戦後のラジオ･フランスによる音楽活動、20世紀フランス音楽を中心に研究、執筆、翻訳を行う。訳書に『オリヴィエ･メシアンの教室』（ジャン･ボワヴァン著、小鍛冶邦隆　日本語版監修／アルテスパブリッシング）がある。東京藝術大学大学院、明治学院大学非常勤講師。

マエストロ チョン・ミョンフン、『トゥランガリーラ交響曲』を語る

――『トゥランガリーラ交響曲』はメシアン自身によって「愛の歌である」と語られており、実際に「愛の歌」「愛の眠りの園」「愛の展開」といったタイトルがつけられた楽章があります。メシアンがこの作品で描こうとした「愛」とはどのようなものであるとマエストロはお考えですか。

「メシアンの作品はすべてが彼の深い信仰心からくる愛のメッセージです。キリスト教は世界にあるさまざまな宗教のひとつにすぎませんが、多くの宗教における宗教観には共通のものがあると思います。なぜなら愛というのは、絶対的に精神的なものだからです。『トゥランガリーラ交響曲』は複雑な和声やリズムをもち、決して易しい作品ではありませんが、音そのものは十分に楽しんでもらえると思います。

先ほど私はメシアンのことを“聖人”といいましたが、彼は子どものように純粋な精神の持ち主でした。みなさんもぜひ、子どものような耳で聴いてみてください。きっと楽しめると思いますよ」

（文=室田尚子／掲載初出：Webマガジン「ONTOMO」チョン・ミョンフン、東京フィル第1000回定期で取り上げるメシアン作品に込められた「愛」を語る）全文はこちらから

https://ontomo-mag.com/article/interview/tpo-myung-whun-chung-messiaen-2024/

The 1000th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. June 23, 2024, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 1001st Suntory Subscription Concert
Mon. June 24, 2024, 19:00 at Suntory Hall

The 162nd Tokyo Opera City Subscription Concert
Wed. June 26, 2024, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

Myung-Whun Chung, conductor

Keigo Mukawa, piano

Takashi Harada, ondes Martenot

Masanobu Yoda, concertmaster

Messiaen: Turangalîla Symphony (ca. 80 min)

I. Introduction
II. Chant d'amour 1 (Love Song 1)
III. Turangalîla 1
IV. Chant d'amour 2 (Love Song 2)
V. Joie du sang des étoiles (Joy of the Blood of the Stars)
VI. Jardin du sommeil d'amour (Garden of Love's Sleep)
VII. Turangalîla 2
VIII. Développement de l'amour (Development of Love)
IX. Turangalîla 3
X. Finale

23 June
24 June
26 June

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council
Sous le parrainage de: Ambassade de France au Japon / Institut français du Japon
In Association with Bunkamura (June 23)

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile

©Takafumi Ueno

Myung-Whun Chung,
conductor

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

23 June
24 June
26 June

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000- 2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden. In June 2022, he received the title of Grand Officer of the Order of Merit of the Republic of Italy for his contributions to Italian cultural development over the years. In March 2023, he became the first-ever Conductor Emeritus of the Filarmonica della Scala in Milan.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001- 2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

©Yuji Ueno

Keigo Mukawa, piano

In 2021, he won third prize at the Queen Elisabeth International Music Competition, one of the three most prestigious competitions in the world, and in 2019, he won second prize at the Ron-Thibault-Crespin International Competition, the most prestigious competition in France. He has attracted a great deal of attention by winning top prizes in two international competitions with a long history and tradition, and is currently based in both Japan and Europe, performing a wide range of solo and chamber music. His repertoire ranges from baroque to contemporary music, and his performances are known for their pursuit of the stylistic beauty of each period and composer, as well as their diverse tone quality. He is also involved in researching techniques not only for the modern piano, but also for the fortepiano, an ancient musical instrument. After graduating from the Tokyo University of the Arts, he went to France to study at the Conservatoire National Supérieur de Musique in Paris, where he was accepted unanimously by the jury at the top of his class in 2014. He completed the third course of the piano department and the first course of the chamber music department. Currently, while performing in Japan and abroad, he is enrolled in the fortepiano department, where he continues his studies. In 2022, he released "Ravel: Complete Works for Piano" from NOVA Record, and also published the score of Ravel's "Ma mère roi" for solo piano, arranged by himself, from Muse Press. In 2024, he received the 33rd Idemitsu Music Award.

Official Website https://keigomukawa.com/

23 June
24 June
26 June

©Yutaka Hamano

Takashi Harada, ondes Martenot

Taking advantage of his encounter with the Ondes Martenot, an instrument with an exceptional capacity for intense self-expression, Takashi Harada embarked on a journey to France following his graduation from the economics department of Keio University. Graduating with top honors from the Ondes Martenot department at the Paris Conservatoire, he began his career as one of the few soloists specializing in the instrument. Harada performs extensively as a soloist of Turangalîla-symphonie, which is a work featuring the Ondes Martenot as a central instrument composed by Olivier Messiaen, one of the best French composers of the 20th century. Harada has performed this work as a soloist with world's leading orchestras in Japan and at major venues abroad including Carnegie Hall, Philharmonie Berlin, Théâtre des Champs-Elysées, Opera de Paris, and Teatro alla Scala. To date, he has delivered over 350 performances of the piece across 20 countries.

Instagram: @takashiharadaondesmartenot

Program Notes

Text by Robert Markow

Messiaen: Turangalîla Symphony

Olivier Messiaen was, without question, one of the greatest, most original, and most influential composers of the twentieth century. He was a mystic to the core of his being, and believed that through music he could communicate "lofty sentiments … and in particular, the loftiest of all, the religious sentiments exalted by the theology and truths of our Catholic faith." Profoundly Catholic since childhood, Messiaen drew strength from a deep and unshakeable faith; nevertheless, he seemed to embrace pagan elements as well. His professed goal was "an iridescent music, one that will delight the auditory senses with delicate, voluptuous pleasures … that lead the listener gently towards that theological rainbow which is the ultimate goal of music." These concepts have been given expression in such monumental works as the *Quartet for the End of Time* (1941), the *Vingt Regards sur l'Enfant-Jésus* (1944) and the five-hour stage extravaganza *Saint François d'Assise*, premiered in Paris in 1983. Another large-scale composition in this category is the *Turangalîla Symphony*, a ten-movement work of nearly eighty minutes' duration.

The symphony was composed between 1946 and 1948 as a commission by Serge Koussevitzky for the Boston Symphony Orchestra. Leonard Bernstein conducted the first performance on December 2, 1949. It is scored for a very large orchestra, which includes an exceptional number and variety of keyboard and percussion instruments. The keyboard department includes a piano part of solo proportions, glockenspiel, celesta, and vibraphone, all of whose combined sounds reproduce approximately the effect of a Balinese gamelan ensemble. Another special tone color in the Turangalîla Symphony comes from the ondes Martenot, an electronic keyboard with a strange, mystical sound invented by Maurice Martenot in 1928. It uses an oscillator to produce pitches, one at a time.

Messiaen explained the meaning of "turangalîla" as a combination of two Sanskrit words: *turanga,* meaning time which flows, movement, or rhythm;

and *lîla*, meaning a kind of cosmic love involving acts of creation, destruction and reconstruction, the play of life and death. An Introduction and Finale frame three interlocking series of movements: two entitled "Chant d'amour" (Hymn of Love), three entitled "Turangalila," and three additional movements each with a separate title. The huge structure is pervaded by four main motifs, which Messiaen called "cyclic themes." Superimposition of rhythmic and melodic ideas, as well as dynamic contrasts of tone colors, textures and rhythms form the essential compositional elements of the *Turangalîla Symphony*.

I. Introduction

In the first movement, two of the four "cyclic themes" are presented: 1) the Statue Theme (ponderous, slowly moving trombone chords played *fortissismo* – these evoke for the composer the image of awesome old Mexican monuments) and 2) the Flower Theme (brief clarinet arabesques played *pianissimo* – smooth, curved, like the petals of a flower).

II. Chant d'amour 1 (Love Song 1)

This movement is laid out as a series of four refrains alternating with other, harmonically and melodically related material. The refrain is a two-part affair consisting of radically contrasting elements: (1) a vigorous, almost ecstatic presentation by the upper-range strings and woodwinds, reinforced by trumpets; (2) a quiet, smoothly lyrical passage played by the strings and ondes Martenot; this is the third of the four cycle themes, the Love Theme.

III. Turangalîla 1

The first of the three Turangalîla movements opens with chamber music – a solo clarinet in dialog with the ondes Martenot with discreet punctuations from the glockenspiel, vibraphone, double bass and piano, all to be played, Messiaen instructs, in a "dreamy" (*réveur*) manner. Trombones and bassoons, in stentorian tones, hurl forth the second theme to the gamelan-inspired accompaniment of piano, celesta, glockenspiel and vibraphone. The sinuous third theme, still to the pseudo-gamelan accompaniment, is given to the solo oboe, then flute.

IV. Chant d'amour 2 (Love Song 2)

This movement begins as a scherzo for piccolo and bassoon playing four octaves apart. Percussion, notably the wood block and later the piano, join in. A bridge passage leads into the first trio (full orchestra), which is

followed immediately by a second trio (seven solo violins and a cello). The two trios are then superimposed, with simulated birdsong played by the piano. Another bridge passage leads to the superimposition of the trios, the scherzo idea and the Statue Theme.

V. Joie du sang des étoiles (Joy of the Blood of the Stars)

This is the most rhythmically stable and the most tonal (much of it is in clearly defined D-flat major) movement in the symphony. Messiaen calls it "a frenetic dance of joy. To understand the excesses of this piece, one must remember that the union of true lovers is for them a transformation on a cosmic scale." Musically, the movement is based on a single theme, that of the Statue, which the orchestra develops in a thousand sparkling, glistening, dazzling colors.

VI. Jardin du sommeil d'amour (Garden of Love's Sleep)

This is the symphony's longest movement. It is the "slow" movement, and stands in total contrast to what just preceded it. Messiaen describes it as "a single expansive phrase on the love theme," played by the ondes and muted strings. The piano evokes birdsong while solo flute and clarinet trace gentle arabesques. The music is quiet throughout, rarely rising above *piano*. The composer depicts the scene in these poetic terms: "The two lovers are enclosed in love's sleep. … Time flows forgotten. The lovers are outside time; let us not waken them."

VII. Turangalîla 2

This movement is made up of several short sections: a piano cadenza; a passage in which the ondes descends while the trombones and tuba ascend, producing what Messiaen calls "a fan closing in on itself"; a construct for six pieces of percussion alone; a perky theme for the solo cello played against a background of glistening keyboard instruments and woodwinds; recurrence of the "fan" music; a densely scored passage for full orchestra; solo piano plus a brief statement of the Statue Theme; final appearance of the "fan." According to the composer, this movement depicts the horrors of Poe's tale "The Pit and the Pendulum."

VIII. Développement de l'amour (Development of Love)

The fourth cyclic theme, the Chords Theme, is heard most clearly at the beginning and end of this movement. The movement's title has a dual meaning: the furtherance of love for an inseparable couple, and musical

development of all four motifs that unify the symphony: Statue, Flower, Chords and especially the Love Theme, which Messiaen presents in what he calls "three great explosions."

IX. Turangalîla 3

This short movement opens with the chamber music textures of Turangalîla I, led by the solo clarinet. Next, recalling Turangalîla 2, we hear six untuned pieces of percussion, which are soon joined by the keyboard group (piano, celesta, glockenspiel, vibraphone), which begins to develop the opening clarinet melody. The texture becomes more complex when woodwinds are added, eventually combining to produce a glowing, magical sound world.

X. Finale

The final movement is a rapturous, almost delirious dance of joy in the key of F-sharp major, which to Messiaen was the most luminescent (*lumineuse*) of keys. A huge crescendo leads into the final presentation of the Love Theme, now proclaimed by the full orchestra in unison, *fortississimo*.

Across the span of ten contrasting movements and some eighty minutes of music we have encountered cumulative superimposition, non-retrogradable rhythms, rhythmic modes, cyclic themes, canons, asymmetric augmentation, diminution, and much more. The technical details need concern only musical theorists; listeners are invited to let the music wash over them in a panoply of sensuous colors and textures, which provide a soaring, mystic vision of cosmic love.

OLIVIER MESSIAEN: Born in Avignon, December 10, 1908; died in Paris, April 27, 1992 Work composed: 1946-48 World premiere: December 2, 1949 in Boston, conducted by Leonard Bernstein with the Boston Symphony Orchestra
Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 3 bassoons, 4 horns, piccolo trumpet, 3 trumpets, cornet, 3 trombones, tuba, percussion (tambourine, tambourin de Provence, snare drum, bass drum, triangle, Turkish cymbal, crash cymbals, suspended cymbal, Chinese cymbal, tam-tam, tubular bells, maracas, wood block, temple blocks, glockenspiel, vibraphone), celesta, piano, ondes Martenot, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

The 1000th Subscription Concert of the Tokyo Philharmonic Orchestra

The Tokyo Philharmonic Orchestra has the longest history and tradition of any orchestra in Japan, spanning over a century from its foundation in Nagoya in 1911. It is currently the largest orchestra in Japan with more than 160 members and is distinguished for its deep and varied repertoire, performing symphonic concerts, opera, and ballet at hundreds of engagements every year.

After moving to Tokyo in 1938, the orchestra played a pivotal role in bringing authentic opera to the Japanese public under Chief conductor Manfred Gurlitt (1890-1972). The orchestra became a fully independent organization officially under the “Tokyo Philharmonic Orchestra” name in 1948, with a regular schedule of subscription concerts, opera, ballet, including broadcast programming on Japan’s national television and radio, NHK.

The 1st Subscription concert as Tokyo Philharmonic Orchestra was held on April 20, 1948, at Tokyo Metropolitan Hibiya Public Hall.

第1回
定期演奏會
東京フイルハーモニー交響樂團
指揮
齋藤秀雄
ピアノ
梶原克
昭和23年4月20日(火)午後3時
日比谷公會堂

The 1st Subscription Concert
Tokyo Philharmonic Orchestra
Conductor: Hideo Saito
Piano: Hiroshi Kajiwara

Tue. 20th April, 1948, 15:00
Tokyo Metropolitan Hibiya Public Hall.

Season 2024 Subscription Concerts Lineup

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's subscription series. You can select from 3 subscription concerts at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall. Please join us the ultimate concert experience!

For more details, please access our website! https://www.tpo.or.jp/en/

July

conductor: Dan Ettinger, conductor laureate **piano: Tomoki Sakata**

Wed, Jul 24, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jul 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jul 29, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mozart:
Piano concerto No. 20
Bruckner:
Symphony No. 4 *Romantic*

Single tickets available

September

conductor : Myung-Whun Chung, honorary music director
Macbeth: Sebastian Catana
Lady Macbeth: Vittoria Yeo
Banquo: Alex Esposito
Macduff: Stefano Secco
Malcolm: Keiro Ohara
Lady-in-waiting to Lady Macbeth: Yuka Tajima
A Doctor: Takayuki Ito
Servant of Macbeth/Murderer/Herald: Yuichiro Ichikawa
Chorus: New National Theatre Chorus

Sun, Sep 15, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Sep 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Sep 19, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Verdi: opera *Macbeth*
Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles

Single tickets available

October

conductor: Daichi Deguchi violin: Moné Hattori

Thu, Oct 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Fri, Oct 18, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Oct 20, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Khachatuiran:
Excerpts from *The Valencian widow* suite
Fazil Say:
Violin concerto *1001 Nights in the Harem*
Kodály: Dances of Galánta
Kodály:
Variations on a Hungarian Folksong
The Peacock

Single tickets available

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mahler:
Symphony No. 7 *Nachtmusik*

Single tickets available

Single ticket prices

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300)
C¥5,500(¥4,950) ( )=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

How to join TOKYO PHIL FRIENDS

⇒ https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)
Tokyo Phil WEB Ticket Service https://www.tpo.or.jp/en/

東京フィルだより ― 2024年シーズン今後の定期演奏会

7月定期演奏会

第163回東京オペラシティ定期シリーズ
7月24日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第1002回オーチャード定期演奏会
7月28日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第1003回サントリー定期シリーズ
7月29日(月)19:00 サントリーホール

指揮：ダン・エッティンガー(東京フィル桂冠指揮者)
ピアノ：阪田知樹*

モーツァルト／ピアノ協奏曲第20番*
ブルックナー／交響曲第4番『ロマンティック』
(ノヴァーク版)〈ブルックナー生誕200年〉

ダン・エッティンガー ©Froehlingsdorf
阪田知樹 ©Ayustet

1回券発売中

9月定期演奏会

第1004回オーチャード定期演奏会
9月15日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第1005回サントリー定期シリーズ
9月17日(火)19:00 サントリーホール

第164回東京オペラシティ定期シリーズ
9月19日(木)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
マクベス：セバスティアン・カターナ
マクベス夫人：ヴィットリア・イェオ
バンクォー：アレックス・エスポージト
マクダフ：ステファノ・セッコ
マルコム：小原啓楼　侍女：但馬由香　医者：伊藤貴之
マクベスの従者、刺客、伝令：市川宥一郎
合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：冨平恭平)

ヴェルディ／歌劇『マクベス』 オペラ演奏会形式
全4幕・日本語字幕付き原語(イタリア語)上演
公演時間：約2時間45分(休憩含む)

チョン・ミョンフン ©上野隆文
セバスティアン・カターナ
ヴィットリア・イェオ

1回券発売中

【料金】1回券　SS¥15,000　S¥10,000　A¥8,500　B¥7,000　C¥5,500
※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522(10時～18時／発売日を除く土日祝休)
https://www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

ダン・エッティンガーは語る
マーラーからブルックナー、私の音楽の重要な転換点を東京フィルで示します

取材・翻訳＝池田卓夫

©Froehlingsdorf

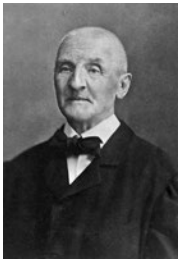
2024年7月。桂冠指揮者ダン・エッティンガー（1971-）が10年ぶりに東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会に戻ってくる。メインは今年が生誕200年に当たるブルックナーの「交響曲第4番『ロマンティック』」。東京フィルとブルックナーを演奏するのは今回が初めてで、エッティンガーも自身の音楽の新たな展開の場と位置付ける。ドイツの自宅と東京を結び、その意気込みを語ってもらった。

――東京フィルとはオペラやマーラーの交響曲の印象が強く、ブルックナーは意外です

「若い頃からマーラーをたくさん指揮してきましたが30代、40代と経験を積んで50代に入り、自身の音楽語法を拡張していく主軸として、ブルックナーへの転換を意図的に進めています。すでに『交響曲第4、5、7番と“0番”（習作）』を手がけ『第8番』を準備中です。東京フィルとブルックナーを初めて演奏するのに際して『第4番』を選んだのは、最も指揮した回数が多く、日本でも演奏頻度の高い作品だからでした」

――ブルックナーのどこに魅力を覚えたのですか？

「天才建築家の仕事を思わせる、建築的構造の美意識です。長い音楽の伝統と一体の素材と天啓を一切の夾雑物（混じりけ）なしに直接結びつけ、オルガンのように響かせるブルックナーの作曲手法はまさに、偉大な宮殿を思わせます。私の個人的な考えではとても正直な音楽です。何かを暗示したり投影したりはせず、極めて古風で純粋なままの音の素材から独自の響きを成し遂げてしまうブルックナーのサウンド・コンセプトに惹かれます」



アントン・ブルックナー（1824-1896）。自身の交響曲に繰り返し改訂を加えたことでも知られる

――ブルックナーは自作に何度も改訂を施した結果、同じ曲に複数の版が存在します

「ブルックナーはオルガン奏者を長く務め、遅くに作曲を始めたことを絶えず意識していました。だからこそ慣習にとらわれず、保守的とはならなかった半面、本当にそれで良いのか先生や同僚に意見を求めるのはもちろん、自身でも4回、5回……とスコアを読み直し、改訂を重ねたのです。自分に厳しく、一貫して学び、拡張する作業をやめませんでした。この終わりない作曲プロセスを通じ、構造はますます拡大していきました」

2010年から2015年まで東京フィル常任指揮者をつとめたマエストロ エッティンガー。現在はシュトゥットガルト・フィル、イスラエル・オペラ及びイスラエル響、ナポリ・サンカルロ劇場音楽監督を兼任。マンハイム国民劇場音楽総監督も務めた。近年、意識的にブルックナーを多く取り上げているという ©niedermueller

――東京フィルとの『ロマンティック』は、どの版で？

「ごく一般的なレオポルド・ノヴァーク版です。初稿版をはじめ、いくつかの版が存在し、色々な意見があるのも知っていますが、ノヴァーク版は現時点で最も信頼され頻繁に演奏されています。東京フィルとブルックナーを演奏するのは初めてですから、一番普通の版を採用するに越したことはありません」

――マーラーからブルックナーへの転換を強調されましたが、同じ文化圏に生きた時間が重なり、時代精神もある程度共有したとすれば、音楽上の共通点も多いはずですが

「ブルックナーとマーラー、私は全く違うという意見です。今日、オーケストラの演奏能力は飛躍的に高まり、作曲技法も複雑さを増していますが、結果として、多くのことが似たり寄ったりになりがちで、差異を感知しにくい状況にあります。２人の作曲家は『ドイツ・ロマン派』の枠組みを共有しているだけで、音楽、特にエモーションのあり方は対照的です。マーラーの狂気一歩手前の領域で大きく揺れ動く感情に対し、ブルックナーはエモーションの境界線をよくわきまえ、構造的に組織された枠の中に収め、パワーを発揮します。目下は私自身がブルックナー交響曲全曲サイクルの途上にある状況で、それぞれのオーケストラに固有の響きを確かめつつ、構造美の世界を究めていくつもりです」

――東京フィルとのケミストリー（化学反応）にも期待が募ります

「新国立劇場の『ファルスタッフ』で日本デビュー、東京フィルを初めて指揮してから20年です。常任指揮者だった時期（2010～2015年）、東京フィルと私が一緒に育んだ響きの記憶が残っていることを確信します。定期公演を振るのは10年ぶりですが、この間に私も音楽の旅を続け、指揮者として成長を続けてきました。今、両者が再び巡り合い、ブルックナーとモーツァルトを演奏するのは絶対、特別な瞬間となるはずです」

――モーツァルトの「ピアノ協奏曲第20番ニ短調」のソロは阪田知樹さんです

「選曲は阪田さんの希望ながら、手を傷めるまでは私もピアニストとして弾き、とても大切な作品です。ニ短調協奏曲を『ロマン派的』と考える傾向には与（くみ）しませんが、ロマンティックな気分を喚起するのは確かで、ブルックナーの交響曲のタイトルにも合致します。阪田さんとは初共演。新しい世代のアーティストとの出会いはい

つも楽しみです」

マエストロ エッティンガーとは初共演となるピアニスト阪田知樹。モーツァルト「ピアノ協奏曲第20番」で登場 © Ayustet

——今回の来日では東京二期会の宮本亞門演出『蝶々夫人』(プッチーニ)のピットにも東京フィルとともに入ります

「外国人の指揮者が53歳にして初めて日本で、日本人を主役としたオペラを日本人キャストで振る! ヨーロッパの歌劇場でも『椿姫』と並ぶ人気作品だから何度も指揮し、自分にとっては“パンとバター”のようなレパートリーなのですが、”寿司とワサビの国”での体験は私のキャリアにとって、新たな1章に違いありません。しかも、東京フィルとプッチーニ全幕を演奏するのは初めてなので、すごく楽しみにしています」

——最後に東京フィル定期会員の皆様、日本の聴衆にメッセージを

「7月定期は単なる再会ではなく、チームの再構築です。私と東京フィルの“内輪”ではなく、聴衆の皆さんも交えたエキサイティングな体験を期待します」

——ありがとうございました。東京での再会が楽しみです。

池田卓夫(いけだ·たくお)/音楽ジャーナリスト@いけたく本舗
1958年東京都生まれ。81年に早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業、(株)日本経済新聞社へ記者として入社。企業や株式相場の取材を担当、88〜91年のフランクフルト支局長時代に「ベルリンの壁」崩壊からドイツ統一までを現地から報道した。音楽についての執筆は高校在学中に始め、専門誌へも寄稿。日経社内では93年に文化部へ移動、95〜2011年に編集委員を務めた。18年9月に退社後は「音楽ジャーナリスト@いけたく本舗」を名乗り、フリーランスの執筆、プロデュース、解説MC、コンクール審査などを続けている。
https://www.iketakuhonpo.com/

東京フィルウェブサイトの特設ページでは阪田知樹さんの動画メッセージもご覧いただけます。

https://www.tpo.or.jp/information/detail-20240724.php

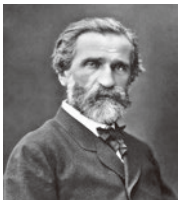
シェイクスピア×ヴェルディのタッグで実現した手に汗握る名作〜『マクベス』への期待

文=加藤浩子

9月定期演奏会は東京フィルのオペラ演奏会形式、名誉音楽監督チョン・ミョンフン指揮によるヴェルディ『マクベス』上演。2022年10月の『ファルスタッフ』、2023年7月『オテロ』に続き、シェイクスピア原作・ヴェルディ作曲による3つの傑作オペラのうち最も初期に完成した作品であり、若きヴェルディが新たな表現に挑んだ意欲作でもあります。ヴェルディはシェイクスピアの何に魅了され、自身の作品で何を目指したのでしょう。

イタリア・オペラを「音楽によるドラマ」に変えた作曲家、ヴェルディ

ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）は、歌手の饗宴という性格が強かったイタリア・オペラを音楽によるドラマへと変えた作曲家である。その創作過程において重要な役割を果たしたのが、イギリスの劇作家**ウィリアム・シェイクスピア**（1564-1616）だった。シェイクスピア劇に基づくヴェルディのオペラは3作を数えるが、どれもオペラ史において画期的な作品になっている。


ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）

ウィリアム・シェイクスピア（1564-1616）

1作目の**歌劇『マクベス』**（1847初演、以下同）では、イタリア・オペラの特徴だった「ベルカント（「美しい歌」が優先される歌唱美を重んじるスタイル）」が否定され、2作目の『オテッロ』（1887）では〈番号オペラ（オペラ全体が、アリアや合唱などいくつかの“曲”に分割されている伝統的なオペラの形式）〉が廃されて、一つの幕が途切れない**〈連続したオペラ〉**が生まれた。3作目にしてヴェルディ最後のオペラである**『ファルスタッフ』**（1893）では、**音楽による会話劇**という全く新しい形式が

登場している。このような革新は、シェイクスピアのように**「人間の心」を描きたい**というヴェルディの情熱があったからこそ成し遂げられた。特に『マクベス』と『オテッロ』は、主役たちの心理を徹底的に掘り下げる心理劇である。

登場人物の心理を徹底的に掘り下げるシェイクスピア作品

シェイクスピアの戯曲『マクベス』は、権力のために罪を犯した人間の悲劇である。スコットランドの武将マクベスは、「王になる」という魔女の予言と野心家の夫人にそそのかされ、国王ダンカンを暗殺した。だが魔女は同時に、武将のバンクォーの子孫が王になるとも予言していた。予言の実現を恐れるマクベスはバンクォー父子の暗殺を試みるが、肝心の息子は逃亡。不安に苛まれるマクベス夫妻は殺戮を繰り返すが、破滅は近づいていた。それも一見不可能に見えた「予言」通りの破滅が。

戯曲『マクベス』のモデルになった実在の人物、マクベタッド・マク・フィンレック(1005-1057)

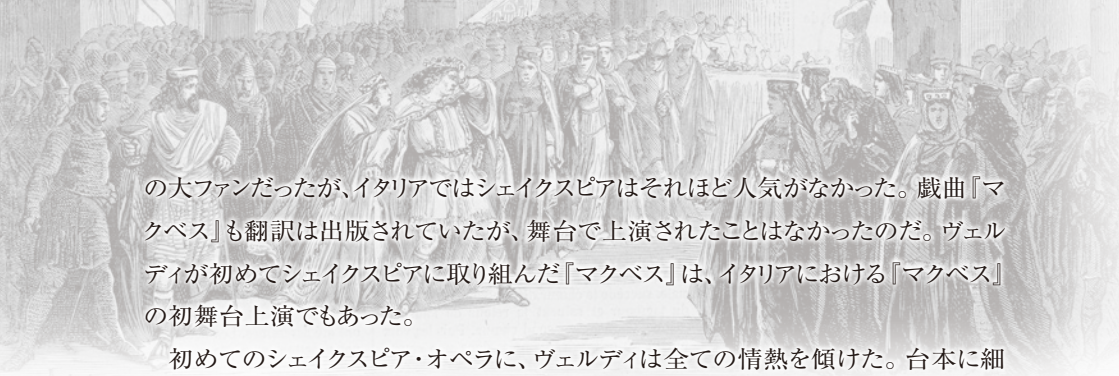
マクベスは実在の人物である。11世紀のスコットランド王で、いとこのダンカン王との戦いに勝利して即位。在位は17年に及び、スコットランド初の法典である『マクベス法典』を編んだり、司法制度を導入するなど名君の側面もあった。最後は戦死するが、この時代では普通のこと。シェイクスピア劇のイメージとはかなり違う人物なのだ。

イングランド国王ジェームズ1世(1566-1625)

シェイクスピア劇でマクベスが悪役になったのには理由がある。シェイスピアはこの作品を、彼のパトロンであるイングランド国王ジェームズ1世の御前で上演したが、他ならないジェームズ1世こそ、劇中で「子孫が王位につく」と予言されるバンクォーの子孫だった。『マクベス』は、ジェームズの王位の正統性を謳った作品でもあったのだ。

だが『マクベス』が名作なのは、罪を犯して権力を奪った人間の心理という普遍的なテーマに迫っているからである。不正な手段で権力を手に入れる人間は、時代や国を問わずどこにでもいる。彼らが不安や罪悪感に悩まされるのは極めて人間的だ。だから引き込まれるのだ。

「人類が創造したもっとも偉大な悲劇の一つ」。『マクベス』のオペラ化に取りかかった時、ヴェルディは台本作家にそう書き送っている。ヴェルディはシェイクスピア



の大ファンだったが、イタリアではシェイクスピアはそれほど人気がなかった。戯曲『マクベス』も翻訳は出版されていたが、舞台で上演されたことはなかったのだ。ヴェルディが初めてシェイクスピアに取り組んだ『マクベス』は、イタリアにおける『マクベス』の初舞台上演でもあった。

初めてのシェイクスピア・オペラに、ヴェルディは全ての情熱を傾けた。台本に細かく口を挟み、歌手に要求を出し、演出に口を出した。それは何より、シェイクスピアの意図を表現するためだった。

ヴェルディ『マクベス』における音楽面での革新『歌うのではなく、語って』

『マクベス』における音楽面での革新を示す理由としてよく挙げられるのが、ヴェルディが歌手達に出した指示である。彼は主役の歌手たちに、「作曲家より詩人（＝シェイクスピア）に従ってほしい」「場面の状況と言葉をよく研究してほしい」「歌うのではなく、語ってほしい」と言い続けた。その結果、朗唱風の歌が増え、いわゆる「ソット・ヴォーチェ」が多用されている。例えばダンカン王の暗殺シーンのすぐ後で歌われるマクベス夫妻の二重唱では、切羽詰まった彼らの心理を表現するために「聴き手をぞっとさせるような陰気な声」、「ずっと小声」が求められた。プリマドンナの超絶技巧の見せ場だった**「夢遊の場」**でも、似たような要求をしている。彼は、マクベス夫人はそのキャラクター上、「醜く邪悪な容姿」で、「荒々しく、曇った、暗い」、「悪魔的な」声であるべきだと考え、美声で容姿端麗な歌手が夫人を歌うことに抵抗した。このような考えは、滑らかで美しい「声」や「歌」、いわゆる「ベルカント」と呼ばれる歌唱法が優先されていたイタリア・オペラでは革命的なことだった。『マクベス』はしばしばイタリア・オペラの歴史を変えた傑作だと評されるが、それはこのような斬新な考え方のためである。ヴェルディがイタリア・オペラ屈指のドラマティストになったのは、あえて言えばシェイクスピアのおかげなのである。

実際、『マクベス』の音楽は斬新だ。朗唱が多いのは前述の通りだし、アリアも、広い音域と跳躍、強い高音を駆使したマクベス夫人の登場のアリア〈**急いでいらっしゃい**〉などドラマティックな曲が際立つ。ダンカン王の暗殺が判明した第1幕フィナーレの**コンチェルタート**（独唱と合唱による「協奏的（＝コンチェルタート）」な音楽）も凄まじい。物語の性格もあり、全体の緊張感が強いのだ。「手に汗握る」と言ったらいいだろうか。

幻想的な雰囲気も『マクベス』の特徴だ。イタリア・オペラでは珍しいものだった

魔女や幽霊といった怪奇趣味は、〈**前奏曲**〉や第1幕、第3幕冒頭の嵐、第3幕の亡霊出現シーンなどの雄弁で不気味なオーケストレーションで体現される。

もちろん、イタリア・オペラならではの「美しい歌」も存在する。第4幕のマクダフのアリア〈**ああ、父の手は**〉、最終場のマクベスのアリア〈**憐れみ、敬意、愛**〉などはその例だ。第4幕のスコットランド難民たちの合唱〈**虐げられた祖国**〉も、合唱の得意なヴェルディならではの心を打つ名曲。『マクベス』はまったくもって、全方位的に聴きどころ満載の名作なのである。

9月に上演される『マクベス』は、チョン・ミョンフンと東京フィルによる〈ヴェルディ×シェイクスピア三部作〉の大団円である。

「『マクベス』では、出発点であるシェイクスピア作品はとてもパワフルで、そのため音楽と言葉の関係はとても濃く、近しいのです」

チョン・ミョンフンはあるインタビューでそう語っている。この言葉を聞いたら、彼の『マクベス』に期待せずにはいられない。どんなドラマが繰り広げられるのか、今から「手に汗握る」気持ちで公演の日を待っている。

『マクベス』題名役は2022年10月『ファルスタッフ』でも題名役をつとめたヴェルディ・バリトン、セバスティアン・カターナが再び登場する　©上野隆文

加藤浩子（かとう・ひろこ）／東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒業、同大学大学院修了（音楽史専攻）。大学院在学中、オーストリア政府給費留学生としてインスブルック大学に留学。音楽物書き。著書に『今夜はオペラ!』『モーツァルト　愛の名曲20選』『オペラ　愛の名曲20選+4』『ようこそオペラ!』（以上、春秋社）、『バッハへの旅』『黄金の翼=ジュゼッペ・ヴェルディ』（以上、東京書籍）、『ヴェルディ』『オペラでわかるヨーロッパ史』『カラー版　音楽で楽しむ名画』『バッハ』（以上、平凡社新書）など。著述、講演活動のほか、オペラ、音楽ツアーの企画・同行も行う。最新刊は『16人16曲でわかるオペラの歴史』（平凡社新書）。
〈公式HP〉http://www.casa-hiroko.com/

9月定期演奏会 チョン・ミョンフン指揮　ヴェルディ:歌劇『マクベス』日本ヴェルディ協会×東京フィル in ぶらあぼONLINE トークイベント開催決定!

2024シーズン必見必聴の演目と各界から期待高まるチョン・ミョンフン指揮9月定期ヴェルディ『マクベス』(オペラ演奏会形式)を、深く・楽しく掘り下げます!

クラシック音楽情報誌「ぶらあぼ」の“ぶらあぼカフェ”からインスタグラムによるオンライン配信。後日、東京フィル公式YouTubeでアーカイヴ配信を行います。

オンライン配信参加方法
東京フィルInstagramアカウント@tokyophilharmonicorchestra
からインスタライブ配信を行います。
ぜひ東京フィルのInstagramをフォローしてください!

◆「ヴェルディ『マクベス』を知る」第1回〈シェイクスピア×ヴェルディ 二人の天才〉

配信日時:7月11日(木)19:00～(約1時間)

出演(敬称略):

お話: 小畑恒夫(音楽評論家・昭和音楽大学客員教授)
VTR特別対談　松岡和子(翻訳家・演劇評論家)× 小畑恒夫　ほか

ナビゲーター:河野典子(音楽評論家・日本ヴェルディ協会事務局長)

◆「ヴェルディ『マクベス』を知る」第2回〈オペラ『マクベス』の魅力に迫る〉

配信日時:8月6日(火)19:00～(約1時間)

出演(敬称略):

お話: 伊藤貴之(バリトン歌手・医者役)
東京フィルメンバー(調整中)

ナビゲーター:河野典子(音楽評論家・日本ヴェルディ協会事務局長)

2023年7月定期演奏会　チョン・ミョンフン指揮ヴェルディ『オテロ』オンライン・トークイベントの様子

4月よりホルン・セクションに佐藤俊輝(さとう・としき)が入団いたしました。

「皆様、はじめまして。ホルンの佐藤俊輝です。

私は、奏者それぞれの個性が混ざり合って相乗効果をもたらし、感動を味わうことのできる。そんな『オーケストラ』で演奏することを中学生の頃から夢見ていました。

この伝統ある東京フィルの一員としてシンフォニーからバレエ、オペラ、ポップスなど幅広い音楽を、素晴らしい共演者の皆様とともに、お客様にお届け出来ることを光栄に思います。日々精進し、さらに素敵な演奏が出来るよう努めてまいります。これからどうぞ宜しくお願い致します」。

4月よりホルン・セクションに西川優弥(にしかわ・ゆうや)が入団いたしました。

「皆様、はじめまして。ホルンの西川優弥です。伝統あるオーケストラの一員として、演奏活動をさせて頂くことを大変嬉しく思っています。

私が初めて聴きに行ったオーケストラの演奏会が、東京フィルのシネマコンサートでした。大好きな映画とその音楽の演奏に、感動したことを今でも覚えています。そんな感動を、今度はお客様に与えることが出来るよう精一杯取り組んでまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします」。

Follow Us!

音楽家たちのインタビューやメッセージは、東京フィルウェブサイトやSNSからもご覧いただけます。東京フィルにもっと親しみを感じていただけるはず。

ぜひ、フォローしてください！

ウェブサイト　X(Twitter)　Facebook　Instagram　Youtube

2024シーズン　今後の定期演奏会

2024シーズンの東京フィル定期演奏会7・9・10・11月公演の1回券が好評発売中です。下半期のスタート7月定期は、桂冠指揮者ダン・エッティンガーを迎えて生誕200年を迎えるアントン・ブルックナーの代表作『ロマンティック』とモーツァルトの珠玉のピアノ協奏曲を、活躍著しいピアニスト阪田知樹を迎えてお届けします。9月は注目のオペラ演奏会形式、名誉音楽監督チョン・ミョンフンとのヴェルディ『マクベス』、10月は出口大地とヴァイオリニスト服部百音の気鋭の共演、11月は首席指揮者アンドレア・バッティストーニの待ち望まれたマーラー交響曲第7番『夜の歌』。引き続き東京フィルの珠玉の公演をお楽しみください。

7月	**指揮: ダン・エッティンガー**（桂冠指揮者） **ピアノ: 阪田知樹*** 第163回 7月24日（水）19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1002回 7月28日（日）15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1003回 7月29日（月）19:00 サントリーホール	モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番* ブルックナー／ 交響曲第4番『ロマンティック』 （ノヴァーク版） 〈ブルックナー生誕200年〉 1回券発売中
9月	**指揮: チョン・ミョンフン**（名誉音楽監督） **マクベス: セバスティアン・カターナ** **マクベス夫人: ヴィットリア・イェオ** **バンクォー: アレックス・エスポージト** **マクダフ: ステファノ・セッコ** **マルコム: 小原啓楼** **侍女: 但馬由香** **医者: 伊藤貴之** **マクベスの従者、刺客、伝令: 市川宥一郎** **合唱: 新国立劇場合唱団（合唱指揮:冨平恭平）** 第1004回 9月15日（日） 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1005回 9月17日（火） 19:00 サントリーホール 第164回 9月19日（木） 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	ヴェルディ／歌劇『マクベス』 オペラ演奏会形式 公演時間：約2時間45分（休憩含む） **※「ヴェルディ『マクベス』を知る」オンライン イベントについては30ページをご参照ください。** 1回券発売中

10月	**指揮: 出口大地** **ヴァイオリン: 服部百音*** 第1006回 10月17日(木) 19:00 サントリーホール 第165回 10月18日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1007回 10月20日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ハチャトゥリアン／ 『ヴァレンシアの寡婦』組曲より ファジル･サイ／ ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』* コダーイ／ガランタ舞曲 コダーイ／ ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲 1回券発売中
11月	**指揮: アンドレア･バッティストーニ** (首席指揮者) 第166回 11月13日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1008回 11月17日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1009回 11月19日(火) 19:00 サントリーホール	マーラー／交響曲第7番『夜の歌』 公演時間：約80分(休憩なし) 1回券発売中

1回券料金(全席指定・税込)

SS席¥15,000　S席¥10,000(¥9,000)　A席¥8,500(¥7,650)
B席¥7,000(¥6,300)　C席¥5,500(¥4,950)　( )=東京フィルフレンズ料金

お問合せ　東京フィルチケットサービス

Tel　03-5353-9522 (平日10時～18時･土日祝日休／発売日の土日祝は10時～16時)
URL　www.tpo.or.jp/ (24時間受付･座席選択可)

詳細はこちら

午後のコンサート。2024シーズン 今後の公演

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2024シーズンのコンサートが好評開催中です。オーケストラの名曲と音楽家のとっておきのお話で楽しむ午後のひととき。10・11月公演の1回券は8月より発売いたします。注目のアーティストとの音楽の時間をお楽しみください。

渋谷の午後のコンサート　会場:Bunkamuraオーチャードホール　開演14:00

7月7日(日)
第22回
夏のパリへ
指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り:
大山大輔

好評発売中

©Earl Ross

9月8日(日)
第23回
心躍らせたあの曲との再会
指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者
ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

好評発売中

©上野隆文

11月4日(月・祝)
第24回
なんでもOK(オーケ)ストラ!!
指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売

©上野隆文　©Yuji Takeuchi

平日の午後のコンサート　会場:東京オペラシティ コンサートホール　開演14:00

託児あり

7月4日(木)
第34回
夏のパリへ
指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り:
大山大輔

好評発売中

©Earl Ross

9月4日(水)
第35回
心躍らせたあの曲との再会
指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者
ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

予定枚数終了

©上野隆文

11月8日(金)
第36回
なんでもOK(オーケ)ストラ!!
指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売

©上野隆文　©Yuji Takeuchi

2024シーズン「渋谷」「平日」シリーズは同演目になります。

休日の午後のコンサート　会場:東京オペラシティ コンサートホール　開演14:00

託児あり

8月12日(月・祝)
第102回
山の思い出
指揮とお話:
横山 奏
ヴァイオリン:
辻 彩奈
ゲスト:
石丸謙二郎

予定枚数終了

©平舘平 ©Makoto Kamiya

10月14日(月・祝)
第103回
クラシックの車窓からⅡ
指揮とお話:
角田鋼亮
チェロ:
鳥羽咲音

1回券8月発売

©Hikaru Hoshi　©Julia Wesely

午後のコンサート。2024シーズンの1回券　10・11月公演 新規発売スケジュール

最優先※お電話のみ (賛助会員様、定期会員様)	**8/20(火)10:00～**
優先※お電話のみ (東京フィルフレンズ会員様)	**8/24(土)10:00～**
WEB優先発売 (どなたでもお求めいただけます)	**8/24(土)10:00～9/2(月)23:59**
一般発売	**9/3(火)10:00～**

イラスト:ハラダチエ

◆渋谷／平日／休日　各シリーズ共通　1回券

1回券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
東京フィルフレンズ会員 WEB優先発売期間	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※公演・席種により4回セット券で完売となっている場合がございます。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。
※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。
※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。お申し込みの際は【イベント託児・マザーズ®】0120-788-222 (土日祝日を除く10:00-12:00、13:00-17:00)までご連絡下さい。

お問合せ・お申込み　東京フィルチケットサービス
03-5353-9522(平日10時～18時／土日祝休　発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)
東京フィルWEBチケットサービス　https://www.tpo.or.jp/

Photo Reports
～チョン･ミョンフン&東京フィルハーモニー交響楽団 韓国ツアー2024

5月7日～11日にかけ東京フィルは名誉音楽監督チョン・ミョンフンの指揮のもと韓国の首都ソウルを含む3都市4公演でのコンサートツアーを行いました。各公演でピアニストチョ・ソンジンをはじめとする韓国の世界的音楽家と共演することで、日韓の芸術家の音楽による融合を現地のお客様にお届けいたしました。韓国が生んだマエストロと若きアーティストたち、そして地元合唱団との共演は各会場で満席のお客様から大喝采をもって迎えられました。

日程・会場
5月7日（火）　ソウル･アーツ･センター 芸術の殿堂　【プログラムA】
5月9日（木）　世宗文化会館 大劇場（ソウル）【プログラムB】
5月10日（金）益山（イクサン）芸術文化会館　【プログラムA】
5月11日（土）高陽（ゴヤン）アラムヌリ芸術センター　【プログラムA】

出演
指揮／ピアノ：チョン･ミョンフン（東京フィル名誉音楽監督）
ピアノ：チョ･ソンジン（プログラムA*）
ヴァイオリン：イ・ジヘ、チェロ：ムン・テグク（以上、プログラムB*）
ソプラノ：ファン・スミ、メゾ・ソプラノ：キム・ジョンミ、テノール：パク・スンジュ、バリトン：サミュエル・ユン、安養市立合唱団、高陽市立合唱団（以上、プログラムB**）

《プログラムA》
シューマン／ピアノ協奏曲*、ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』
〈オーケストラ･アンコール〉ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」
《プログラムB》
ベートーヴェン／三重協奏曲*、ベートーヴェン／交響曲第9番『合唱付き』**
〈オーケストラ･アンコール〉ベートーヴェン／交響曲第9番『合唱付き』第4楽章より

主催･運営：クレディア･ミュージック&アーティスツ

5月7日ソウル・アーツ・センター公演（ピアノ：チョ・ソンジン）　写真提供=クレディア

5月9日世宗文化会館（大劇場）公演。マエストロ チョン・ミョンフンの指揮とピアノによるベートーヴェン「三重協奏曲」と「交響曲第9番『合唱付き』」を取り上げたこの公演では、約3000人のお客様から長く盛大なスタンディング・オベーションをいただきました　写真提供=クレディア

Photo Reports　2024年4月·5月の演奏会より

2024年春は、1999年に開始した人気シリーズ「午後のコンサート」25年目の幕開け。4月、記念すべき「第100回」を迎えた「休日の午後のコンサート」では豪華ゲストを迎えての華やかなコンサートを、5月の「平日／休日の午後のコンサート」では気鋭のジャズピアニストと、東京フィルメンバーの華麗なソロとともに20世紀アメリカのポップ・クラシックセレクションをお届けし、各公演でたくさんのお客様にお楽しみいただきました。

第100回 休日の午後のコンサート〈響演! 100回記念スペシャル〉(4/14)

撮影=友澤綾乃

指揮とお話：円光寺雅彦
ゲスト：石丸幹二
ソプラノ：福留なぎさ*
メゾ·ソプラノ：花房英里子*
テノール：寺田宗永*
バリトン：井出壮志朗*
合唱：新国立劇場合唱団
（合唱指揮：平野桂子）*
コンサートマスター：近藤 薫

ヘンデル／『王宮の花火の音楽』より序曲
ウォルトン／戴冠行進曲『王冠』
團 伊玖磨／祝典行進曲〈團 伊玖磨生誕100年〉
リスト／交響詩『レ·プレリュード』
ベートーヴェン／交響曲第9番『合唱付き』より第4楽章*
100回記念特別企画
"ラデツキー行進曲"を指揮できる！（ご来場のお客様）

マエストロ円光寺雅彦と特別ゲスト石丸幹二さんの愉しいお話も／「100回記念特別企画」として客席から抽選で1名のお客様が「ラデツキー行進曲」の指揮に挑戦！　客席、オーケストラにも笑顔があふれました

若手ソリストを迎え新国立劇場合唱団とともに歌い上げた『第九』が記念すべき100回の公演を彩りました

第33回 平日の午後のコンサート(5/15)／第21回 渋谷の午後のコンサート(5/19)〈クラシック・ジュークボックス〉

撮影=上野隆文

指揮とお話：栗田博文　ピアノ：壷阪健登＊　コンサートマスター：依田真宣

アンダーソン／クラシカル・ジュークボックス
J. ウィリアムズ／映画『11人のカウボーイ』序曲
ディロレンツォ／トロンボーン協奏曲『リトル・カウボーイ』〔独奏：辻 姫子（東京フィルトロンボーン首席奏者）〕
アンダーソン／フィドル・ファドル、クラリネット・キャンディ、トランペット吹きの子守唄〔独奏：野田 亮（東京フィルトランペット首席奏者）〕、サンドペーパー・バレエ
ガーシュウィン／ラプソディー・イン・ブルー＊
【アンコール】 壷阪健登（ピアノ）即興演奏、J. ウィリアムズ／映画『インディ・ジョーンズ』より「レイダース・マーチ」

指揮とお話はマエストロ栗田博文、ゲストは今回がオーケストラとの初共演というジャズピアニスト／作曲家の壷阪健登さん。爽やかなトークとスタイリッシュかつ求心力の高い演奏で会場を魅了しました

アメリカの作曲家ディロレンツォのトロンボーン協奏曲『リトル・カウボーイ』は東京フィルトロンボーン首席・辻姫子が、ルロイ・アンダーソン『トランペット吹きの子守歌』では同トランペット首席・野田亮がソロを奏でました

「午後のコンサート」引き続きお楽しみください！

出会いは音楽に運ばれて

画家
ハラダ チエ

東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第24回は、東京フィルの「午後のコンサート」「ハートフルコンサート」「こども音・楽・館」等のメイン絵や定期演奏会のパンフレット表紙絵を長きにわたり手掛けてくださっている画家のハラダチエさん。日本画を学んでいたというハラダさんがクラシック音楽に出会いイラストを手掛けるようになった、そのターニングポイントを綴ってくださいました。

樹の上やベートーヴェンと一緒に子ども達がオーケストラを聴いている絵は、私が東京フィルの公演チラシのために描いた最初の絵です。2002年、チョン・ミョンフン指揮第1回「こども音・楽・館」のために、子ども達がオーケストラを身近に感じられるような絵を描いてほしい、とのご依頼をいただきました。その後、お客様がティータイムを楽しむ様子の「午後のコンサート」、黒柳徹子さんを中心に世界中の人々が手を繋ぎ、見ているあなたも間に入って輪を作りましょう、との思いを込めた「ハートフルコンサート」、年間でテーマを決めて描く渾身の表紙絵「定期演奏会プログラム」等々にイラストや日本画を20年以上描かせていただいています。様々なクラシック音楽や作曲家を勉強させていただき、イマジネーションを鍛えてくださった東京フィルとは、こうして特別な絆を紡ぐことが出来たと思います。

こども音・楽・館、午後のコンサート、ハートフルコンサート　それぞれハラダさんが手がけた最初のイラスト

時を遡ること数十年。美大を卒業し、父が画家だったこともあり実家のアトリエで制作し始めた頃、何のご縁か、見ず知らずの音楽家と知り合って1か月で入籍してしまいました。しーんとしていた私の画業生活が急激に音楽生活に変化していきました。実家から抜け出したいタイミングと、元々音楽好きだった父が「メシアンの曲を演(や)れるのは凄いね」と反応してくれたことが、未知の世界に踏み出すアクセルになったのでしょうか。そんなわけで、それまで私が描いていた抽象画や花鳥風月のモチーフに加わったのは、楽器や演奏者、オーケストラピットの白く輝く譜面台などでした。オーケストラは視覚的にも魅力的でコンサートに行く度に休憩時間は夢中でスケッチしたものです。

6月定期演奏会「トゥランガリーラ交響曲」のオンド・マルトノ奏者の原田節との結婚で、この交響曲を聴く機会にも数知れず恵まれました。チョン・ミョンフン氏の指揮で東京フィルとの共演は2度目。聴衆の熱狂ぶりも記憶に残る素晴らしい演奏会が蘇ります。絵や音楽を何度も見たり聴いたりするとディテールが見えてきて毎回新しい発見がありますね。この新鮮な驚きをこれからも大切にしていきたいと思います。

ハラダ チエ／武蔵野美術大学日本画学科卒業。片岡球子に師事。東京フィルの公演チラシやオルガンコンサート、日本郵便、書籍、新聞、オラクルカードなどにイラストを提供。浅草オペラ100周年用の原画は記念切手になっている。定期的に個展を開催。オンド・マルトノ奏者の原田節氏は夫君。
ハラダさんが東京フィルのために描いたこれまでの作品はこちらからご覧いただけます➡https://chiesroom.com

https://chiesroom.com

Instagram
@chiesroom

皆様におかれましてはお健やかにお過ごしのことと存じます。
今月、第1000回を迎える本演奏会では、
マエストロとも交流があったメシアンの名曲をお届けいたします。
2名のソリストと楽団が紡ぎ出す演奏をぜひご堪能ください。
引き続き、当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長　三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役　社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IHI
代表取締役社長　井手 博

(株)アイエムエス
取締役会長　前野 武史

(医)相澤内科医院
理事長　相澤 研一

アイ・システム(株)
代表取締役会長　松﨑 務

(株)アシックス
シニアアドバイザー　尾山 基

(株)インターテクスト
代表取締役　海野 裕

ANAホールディングス(株)
代表取締役社長　芝田 浩二

(株)NHKエンタープライズ
代表取締役社長　有吉 伸人

大塚化学(株)
特別相談役　大塚 雄二郎

(株)オーディオテクニカ
代表取締役社長　松下 和雄

(公財)オリックス宮内財団
代表理事　宮内 義彦

カシオ計算機(株)
代表取締役 社長 CEO　増田 裕一

キヤノン(株)
代表取締役会長兼社長 CEO　御手洗 冨士夫

(株)グリーンハウス
代表取締役社長　田沼 千秋

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長　新浪 剛史

信金中央金庫
理事長　柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役　遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長　田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長　金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長　菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長　小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役　社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長　髙橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO　村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長　宗森 耕二

都築学園グループ
総長　都築 仁子

東急(株)
取締役社長　堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長　長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長　大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長　添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長　関口 明

(株)ニチイケアパレス
代表取締役社長　秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役社長　柴尾 雅春

日本ライフライン(株)
代表取締役社長　鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役　新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO　北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長　河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO　福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長　中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役　宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問　小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役　田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長　松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長　辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長　長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長　山野 政彦

ユニアデックス株式会社
代表取締役社長　田中 建

ユニオンツール(株)
代表取締役会長　片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長　今西 宏明

楽天モバイル(株)
代表取締役会長　三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長　岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長　山本 修司

(医)エレソル　たにぐちファミリークリニック
理事長　谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長　和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役　雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長　加藤 徹

(医)康明会
理事長　遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長　伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員　若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事　金子 眞吾

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長　吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役　太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長　時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役　代表執行役社長　三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長　漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年（明治44年）に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいちはやく受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後もさらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行（郵便振替）	三井住友銀行・東京公務部（096）
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。
※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。
※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、
　下記送付先へご送付ください。
　寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。

寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
https://www.tpo.or.jp/support

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書　送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部　寄附担当
〒163-1408　東京都新宿区西新宿3-20-2　東京オペラシティタワー8階
Fax: 03-5353-9523　　Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel: 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィルの賛助会（応援団）に入りませんか？

2024年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立113年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは 1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

オフィシャル・サプライヤー　※

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリュード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。
東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当（partner@tpo.or.jp）までお尋ねください。
ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】
東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部（担当：星野・鹿又（かのまた））
Tel: 03-5353-9521（平日10時～18時）　Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演事業）」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022（令和4）年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択（2022～2024年度）を受け、2023年度も6月から1月にかけ、8校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催いたしました。

小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待･･･留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス（03-5353-9522）までお問合せください。

定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン（2019年7月東京オペラシティ定期）

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「“とどけ心に”特別招待シート」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使わせていただきます。

お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時～18時／土日祝休)

3～5月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

池田直宏、海原敏明、髙村政之、永田 絢(他匿名希望7名)　(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- **周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい**
- **商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい**
- **式典や学会などでの演奏を企画したい**
- **東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい**
- **新製品、サンプルを会場で販売・配布したい**

日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

どうぞお気軽にご用命ください。

【広告・協賛のお問合せ】　東京フィルハーモニー交響楽団　広報渉外部
Tel: 03-5353-9521(平日10時～18時)　Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirosawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

今村 亜里子
Ariko Imamura

入江 真歩
Maho Irie

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒田 玲
Rei Kuroda

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

松岡 野乃花
Nonoka Matsuoka

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邉 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

髙平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曽和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos

金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki
服部 誠◎
Makoto Hattori
渡邉 辰紀◎
Tatsuki Watanabe
黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa
高麗 正史☆
Masashi Korai
石川 剛
Go Ishikawa
大内 麻央
Mao Ouchi
太田 徹
Tetsu Ota
菊池 武英
Takehide Kikuchi
佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki
長谷川 陽子
Yoko Hasegawa
渡邊 文月
Fuzuki Watanabe

コントラバス
Contrabasses

片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka
黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki
遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo
小笠原 茅乃
Kayano Ogasawara
岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto
小栗 亮太
Ryota Oguri
熊谷 麻弥
Maya Kumagai
菅原 政彦
Masahiko Sugawara
田邊 朋美
Tomomi Tanabe
中村 元優
Motomasa Nakamura

フルート
Flutes

神田 勇哉◎
Yuya Kanda
斉藤 和志◎
Kazushi Saito
さかはし 矢波
Yanami Sakahashi

オーボエ
Oboes

荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa
佐竹 正史◎
Masashi Satake
岡村 彩香
Ayaka Okamura
杉本 真木
Maki Sugimoto
若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashi

クラリネット
Clarinets

アレッサンドロ・ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari
万行 千秋◎
Chiaki Mangyo
黒尾 文恵
Fumie Kuroo
鳥潟 さくら
Sakura Torigata
林 直樹
Naoki Hayashi

ファゴット
Bassoons

河野 星◎
Akari Kono
チェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe
廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata
井村 裕美
Hiromi Imura
桔川 由美
Yumi Kikkawa
森 純一
Junichi Mori

ホルン
Horns

齋藤 雄介◎
Yusuke Saito
高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi
磯部 保彦
Yasuhiko Isobe
大東 周
Shu Ohigashi
木村 俊介
Shunsuke Kimura
佐藤 俊輝
Toshiki Sato
田場 英子
Eiko Taba
塚田 聡
Satoshi Tsukada
豊田 万紀
Maki Toyoda
西川 優弥
Yuya Nishikawa
山内 研自
Kenji Yamanouchi

トランペット
Trumpets

川田 修一◎
Shuichi Kawata
野田 亮◎
Ryo Noda
古田 俊博◎
Toshihiro Furuta
杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama

トロンボーン
Trombones

辻 姫子◎
Himeko Tsuji
中西 和泉◎
Izumi Nakanishi
石川 浩
Hiroshi Ishikawa
五箇 正明
Masaaki Goka
藤田 恵輔
Keisuke Fujita
山内 正博
Masahiro Yamauchi

テューバ
Tubas

大塚 哲也
Tetsuya Otsuka
荻野 晋
Shin Ogino

ティンパニ&パーカッション
Timpani & Percussion

岡部 亮登◎
Ryoto Okabe
塩田 拓郎◎
Takuro Shiota
秋田 孝訓
Takanori Akita
木村 達志
Tatsushi Kimura
鷹羽 香緒里
Kaori Takaba
中村 勇輝
Yuki Nakamura
縄田 喜久子
Kikuko Nawata
船迫 優子
Yuko Funasako
古谷 はるみ
Harumi Furuya

ハープ
Harps

梶 彩乃
Ayano Kaji
田島 緑
Midori Tajima

ライブラリアン
Librarian

武田 基樹
Motoki Takeda

ステージマネージャー
Stage Managers

稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka
大田 淳志
Atsushi Ota
古谷 寛
Hiroshi Furuya

◎首席奏者
Principal

○副首席奏者
Assistant Principal

☆フォアシュピーラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン･ミョンフン、首席指揮者アンドレア･バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル･プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ･バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『クラシックTV』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regulary performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS　https://www.tpo.or.jp/

©上野隆文

東京フィルWEB

役員等・事務局・団友

役員等（理事・監事および評議員）

理事長
三木谷 浩史

副理事長
黒柳 徹子

専務理事
石丸 恭一

常務理事
工藤 真実

理事
浮舟 邦彦
大賀 昭雄
大塚 雄二郎
小山田 隆
篠澤 恭助
田沼 千秋
寺田 琢
遠山 敦子
野本 弘文
韓 昌祐
平井 康文
宮内 義彦

監事
岩崎 守康
山野 政彦

評議員
伊東 信一郎
海老澤 敏
佐治 信忠
鈴木 啓介
瀬谷 博道
日枝 久

事務局

楽団長
石丸 恭一

事務局長
工藤 真実

公演事業部
市川 悠一
岩崎 井織
大久保 里香
大谷 絵梨奈
佐藤 若菜
村尾 真希子
吉田 結衣

ステージマネージャー
稲岡 宏司
大田 淳志
古谷 寛

ライブラリアン
武田 基樹

広報渉外部
伊藤 唯
鹿又 紀乃
千木 加寿子
二木 憲史
星野 友子
松井 ひさえ
安田 ひとみ

総務・経理
川原 明夫
鈴木 美絵

団友

安藤 栄作
池田 敏美
糸井 正博
今井 彰
井料 和彦
岩崎 龍彦
植木 佳奈
上野 眞行
生方 正好
大兼久 輝宴
大澤 昌生
大和田 皓
岡部 純
小榑 敦子
小山 智子
甲斐沢 俊昭
加藤 明広
加藤 博文
金崎 真由美
川人 洋二
木村 友博
黒川 正三
黒沢 誠登
河野 啓子
近藤 勉
今野 芳雄
齊藤 匠
坂口 和子
嵯峨 正雄
嵯峨 美穂子
桜木 弘子
笹 翠
佐々木 等
佐野 恭一
清水 真佐子
瀬尾 勝保
高岩 紀子
高野 和彦
高村 千代子
竹林 良
竹林 陽子
田中 千枝
田村 武雄
津田 好美
戸坂 恭毅
長池 陽次郎
長岡 愼
長倉 穣司
新田 清枝
新田 伸雄
二宮 純
野仲 啓之助
畑中 和子
玻名城 昌子
福村 忠雄
藤原 勲
古野 淳
細川 克己
細洞 寛
本田 詩子
松澤 久美子
湊 貞男
宮原 真弓
山屋 房子
吉田 啓義
米倉 浩喜
脇屋 俊介

〈発行日〉2024（令和6）年6月23日　〈発行人〉石丸 恭一
〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F　Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523
フランチャイズ・ホール：Bunkamuraオーチャードホール　提携：千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市
〈デザイン・本文イラスト〉米田デザイン事務所　〈表紙画〉ハラダチエ　〈編集協力〉ひとま舎
〈印　刷〉欧文印刷株式会社
©Tokyo Philharmonic Orchestra ＊無断転載を禁ず（非売品）

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪開演時間をチェック！

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認を！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

こころの時間

Tokyo Philharmonic Orchestra　*Season 2024*